研究発表もうしこみフォーム

氏名：ハムゴト
氏名のローマ字表記：Hamugetu
所属：広島大学外国人客員研究員
専門分野：歴史（近代史）
発表のタイトル：蒙古地方自治政務委員会の樹立過程について―内モンゴル自治運動と中華民国、日本の対応、1933 年 9 月～1934 年 4 月
発表要旨（600 字～800 字程度）：
1933 年 7 月、デムチュクドンロブ王の提唱で第一回バトハーラガ自治会議が開催された。中華民国の（南京）国民政府体制下において、高度の自治権を持つ「内蒙自治政府」の樹立を目指した内モンゴル自治運動の幕開けである。1933 年 9 月から国民政府との何度の折衝を経て、1934 年 2 月 28 日の中央政治会議（中国国民党中央執行委員会に責任を負う）第 397 回会議で審議・採択した「蒙古地方自治弁法原則」に基づき、満洲国外の諸旗を総轄する内モンゴル地域（後にフフノール諸旗も参加を表明）最高行政機関として蒙古地方自治政務委員会が 1934 年 4 月 23 日に誕生した。1936 年以降、同委員会は国民政府により解体され、中枢であったデムチュクドンロブ王らは「日蒙連携」を唱える関東軍と接近し、「蒙古独立」の道を歩み始めたのである。先行研究はデムチュクドンロブ王の軌跡をたどって、近代内モンゴルの「民族運動」と日本の内モンゴル政策という二つの軸から、この時期の歴史過程について問うてきた。しかし、先行研究の成果は、蒙古地方自治政務委員会の樹立後に内モンゴルがいかなる経緯で日本の統治の時代をむかえたのかという問題の解明に集中されており、内モンゴル自治運動の幕開けから蒙古地方自治政務委員会の誕生までのプロセスについては、十分には明らかにされてこなかった。その重要な原因として、史料の制約、とくに中国国民党、国民政府側の一次史料の欠如があげられる。近年の台湾では、公文書館の公開が積極的に推進められており、本格的な実証研究を行う環境が整いはじめている。本発表では、台湾の公文書史料や他に発表者が新たに発掘した史料の分析に基づき、これまで使われてきた史料を再吟味しながら、「満州国外の内モンゴル」で複雑に絡み合っていた内モンゴル・中華民国・日本の相互関係、およびその変遷という視点から、内モンゴル自治運動の幕開けから蒙古地方自治政務委員会の樹立に至るまでの歴史過程を解明する。